

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	74	実施計画番号	128
事務事業名	産学官連携企業交流事業		
個別事業名		事業開始年度	平成17年度
担当課名	商工労政課	事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	新たな事業の創出や企業誘致、製品開発を進めるため、市内の企業や北里大学との連携を図る。		
事務事業の目的	地域の優良な農林水産資源の活用、製品開発や販路拡大のため、企業交流会等を中心とした産学官連携による交流・情報交換を図ることを目的とする。		
実施状況	平成24年度においては、企業立地推進計画の見直しのため、市内企業及び北里大学を検討委員とした会議を開催、基本方針の内容について様々な意見を頂き、基本方針の内容に反映することができた。今後も同様に事業を展開していきたい。		

### 【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	60	60	60
	人件費(千円)	2,160	2,160	2,160
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)	0	0	0

### 【事業費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)		50	64	150
うち一般財源		50	64	150
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

### 【指標】

活動指標	活動指標名①	交流会・情報交換事業				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
		回	2	4	2	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
成果指標	成果指標名①	参加企業数(企業交流会)				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		社	目標値	26	26	26
			実績値	16	13	
			達成度(%)	62%	50%	
	成果指標名②	企業立地推進基本方針検討委員会(企業数)				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		社	目標値	0	4	0
			実績値	0	4	0
			達成度(%)	0%	100%	0%

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	74
計画No	128

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市内企業を中心とした産学官連携による交流・情報交換事業を展開、事業の実施については妥当であると判断する。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	市内企業を中心とした産学官連携による交流・情報交換事業を展開、事業の実施については妥当であると判断する。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
市内企業を中心とした産学官連携による交流・情報交換事業を展開、事業の実施については妥当であると判断する。										
② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">3 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平成24年度においては、企業立地推進基本方針の改定のため、検討委員会を設置、市内誘致企業等及び北里大学等からの貴重な意見を基本方針の内容に反映することができた。しかしながら、連携の機会はまだ多くはないため、今後は、より積極的に連携事業を展開していきたい。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	3 / 6	平成24年度においては、企業立地推進基本方針の改定のため、検討委員会を設置、市内誘致企業等及び北里大学等からの貴重な意見を基本方針の内容に反映することができた。しかしながら、連携の機会はまだ多くはないため、今後は、より積極的に連携事業を展開していきたい。	
	成果向上の余地	3 / 6								
	平成24年度においては、企業立地推進基本方針の改定のため、検討委員会を設置、市内誘致企業等及び北里大学等からの貴重な意見を基本方針の内容に反映することができた。しかしながら、連携の機会はまだ多くはないため、今後は、より積極的に連携事業を展開していきたい。									
④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">コストにおいて無駄はないと考える。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	コストにおいて無駄はないと考える。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	コストにおいて無駄はないと考える。									
⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市内企業と連携することで受益の範囲が広がっており、公平である。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	市内企業と連携することで受益の範囲が広がっており、公平である。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
市内企業と連携することで受益の範囲が広がっており、公平である。										
⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					17 / 20	改善の余地	3 / 20			

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択)

⇒ 有効性を改善して継続

方向性の理由
企業と情報を共有化し企業が行う事業に対して効果的な支援を行う。
今後の具体的な取組み方策と狙う効果
セミナーや企業訪問等により、更なる産学官連携の浸透を図る。